

2022年度 第2四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2022年10月31日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q2連結実績は対前年同期・対前期ともに増収減益
- ◆ 原料価格は下落、為替は円安が進行
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大によるリモート・巣ごもり需要は落ち着く

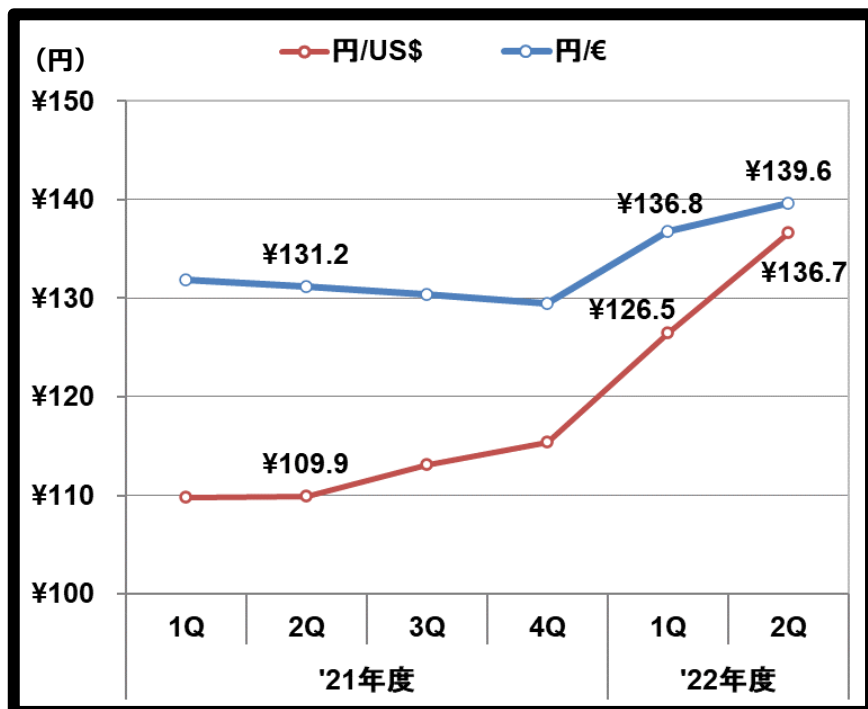
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 販売価格の改定が進み、YoY・QoQともに増収増益
- ◆ 合成ゴムは主力工場の定期修繕のため、出荷量調整を実施するも、需要は堅調

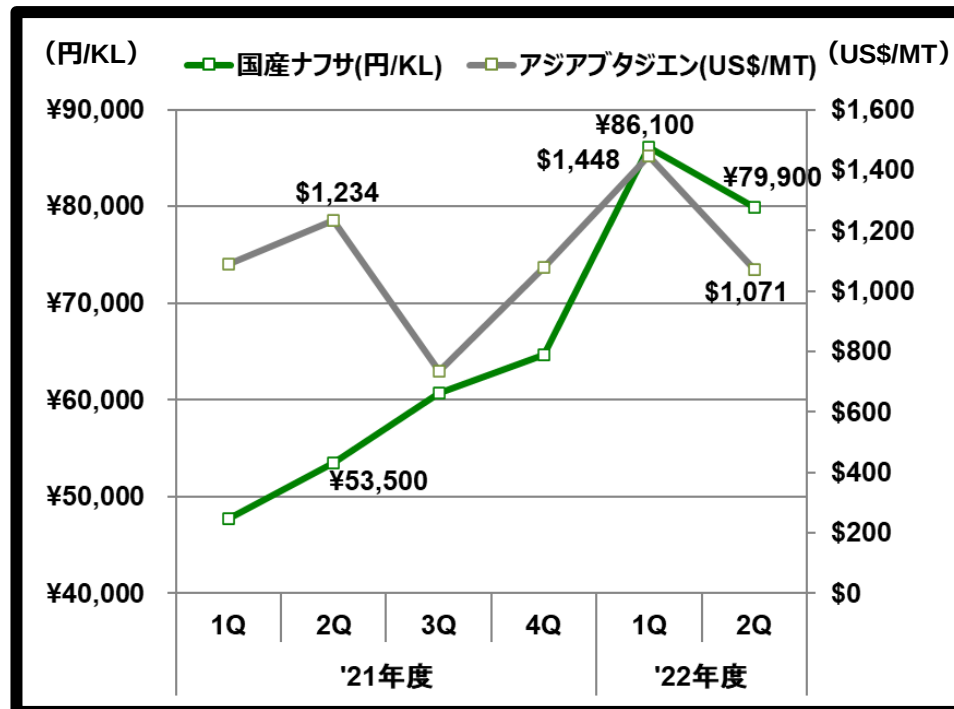
【高機能材料の概況】

- ◆ YoY・QoQともに減収減益
- ◆ 光学樹脂は医療その他向けで需要は堅調、光学フィルムは需要低下
電池材料は民生向け需要に一服感、LIB原料価格高騰の影響等で顧客稼働率低下

【為替推移】



【主原料推移】



		2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥109.9	¥126.5	¥136.7	+24%	+8%
	円/€	¥131.2	¥136.8	¥139.6	+6%	+2%
主原料	国産ナフサ/KL	¥53,500	¥86,100	¥79,900	+49%	▲7%
	アジアブタジエン/MT	\$1,234	\$1,448	\$1,071	▲13%	▲26%

※国産ナフサ：2021年度Q2及び2022年度Q1は確報値、2022年度Q2は当社見込値

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2021年度	2022年度	対前年
	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	上期	上期	同期比
売上高	919	976	998	+79	+23	1,791	1,974	+183
営業利益	111	107	95	▲16	▲13	250	202	▲48
経常利益	117	129	115	▲3	▲15	266	244	▲22
当期純利益	83	87	87	+4	+0	184	174	▲10

- 前年同期比：売上高 +79億円、営業利益 ▲16億円
- 前期比：売上高 +23億円、営業利益 ▲13億円
- 上期比：売上高 +183億円、営業利益 ▲48億円

注記：海外関係会社の2022年4～6月実績がQ2連結決算に反映されています。

2022年度Q2 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	502	535	579	+77	+43
高機能材料	289	301	265	▲ 24	▲ 36
その他の事業、消去等	128	140	155	+27	+15
売上高合計	919	976	998	+79	+23

【営業利益】	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	48	41	53	+5	+12
高機能材料	63	70	47	▲ 16	▲ 23
その他の事業、消去等	1	▲ 3	▲ 5	▲ 5	▲ 2
営業利益合計	111	107	95	▲ 16	▲ 13

2022年度上期 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

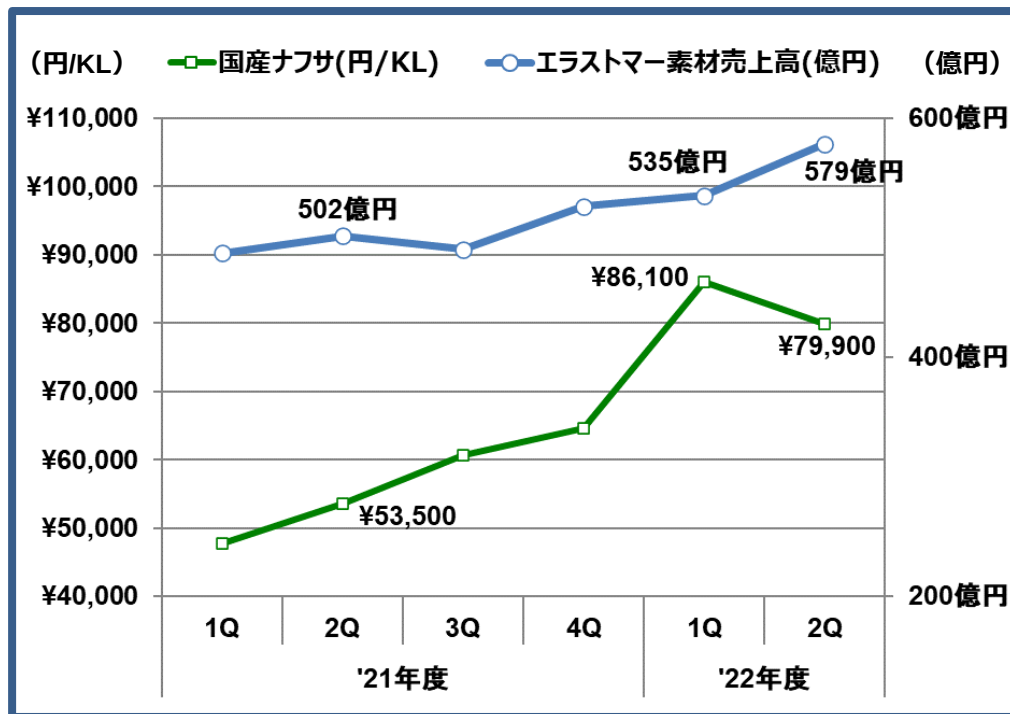
（単位：億円）

【売上高】	2021年度 上期	2022年度 上期予想	2022年度 上期	対前年 同期比	増減率	予想との差	増減率
エラストマー素材	989	1,080	1,114	+125	+13%	34	+3%
高機能材料	541	617	566	+25	+5%	▲ 51	▲ 8%
その他の事業、消去等	261	293	294	+33	+13%	1	0%
売上高合計	1,791	1,990	1,974	+183	+10%	▲ 16	▲ 1%

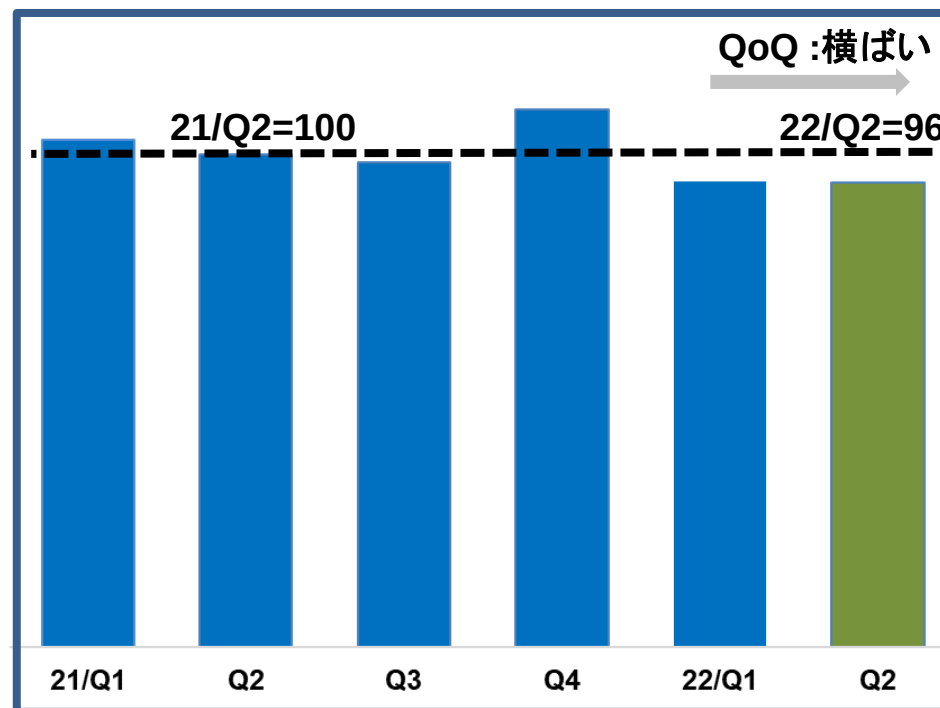
【営業利益】	2021年度 上期	2022年度 上期予想	2022年度 上期	対前年 同期比	増減率	予想との差	増減率
エラストマー素材	108	76	93	▲ 15	▲ 14%	17	+23%
高機能材料	140	142	116	▲ 24	▲ 17%	▲ 26	▲ 18%
その他の事業、消去等	1	▲ 3	▲ 8	▲ 9	-	▲ 5	-
営業利益合計	250	215	202	▲ 48	▲ 19%	▲ 13	▲ 6%

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



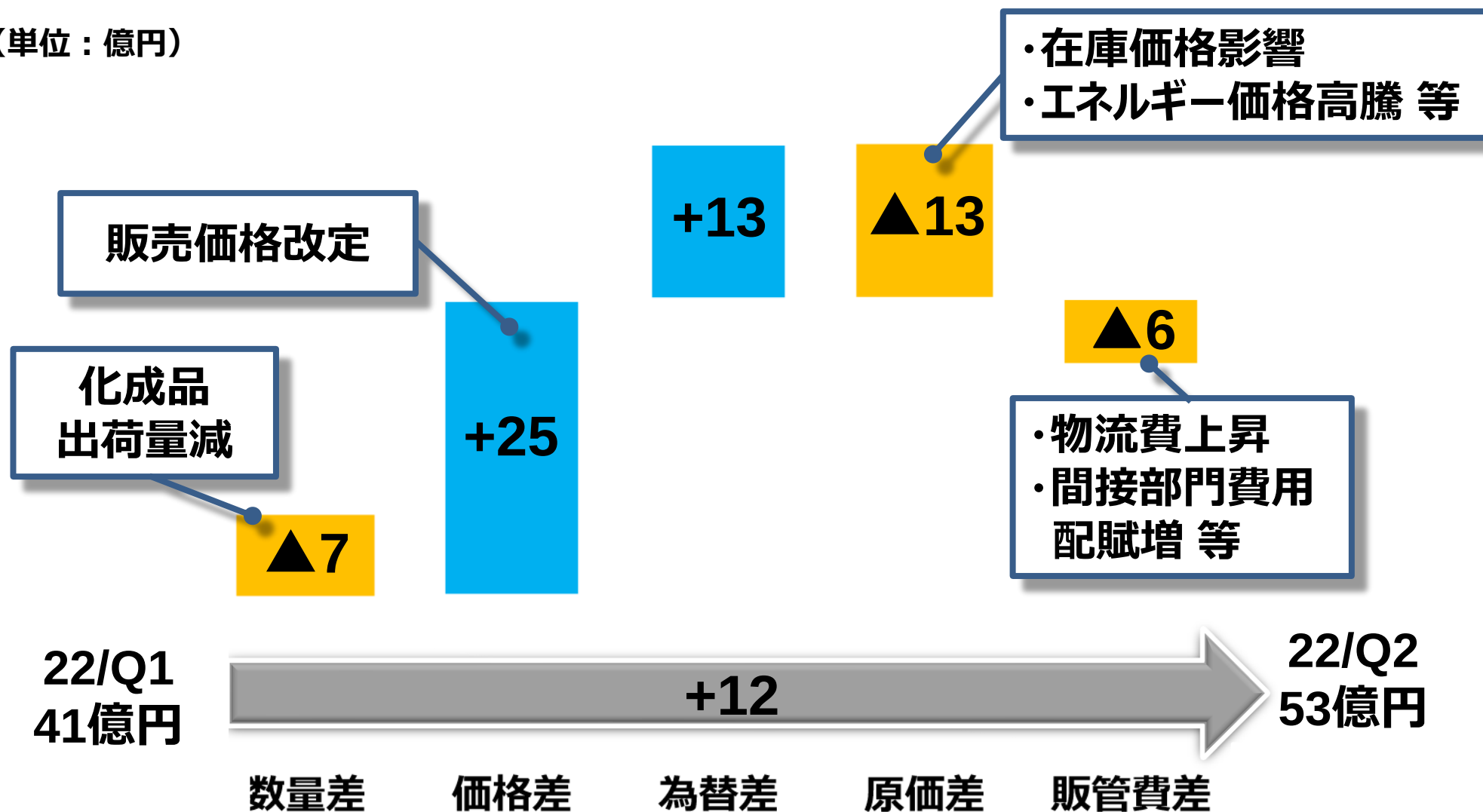
- 国産ナフサ価格は下落するも、販売価格改定が進み、合成ゴムを中心にエラストマー素材事業の売上高は増加
- 合成ゴムは主力工場の定期修繕のため出荷量を調整
YoYは出荷量減、QoQは出荷量横ばい

(単位：億円)	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (21/Q2=100)	100	92	90	▲ 10 pt	▲ 10 %	▲ 3 pt	▲ 3 %
合成ゴム	100	96	96	▲ 4 pt	▲ 4 %	▲ 0 pt	▲ 0 %
ラテックス	100	66	73	▲ 27 pt	▲ 27 %	8 pt	12 %
化成品	100	113	90	▲ 10 pt	▲ 10 %	▲ 23 pt	▲ 20 %
売上高	502	535	579	77	15 %	43	8 %
合成ゴム	325	374	416	91	28 %	42	11 %
ラテックス	68	36	43	▲ 25	▲ 37 %	7	18 %
化成品	101	116	108	7	7 %	▲ 8	▲ 7 %
その他・消去	8	9	12	4	49 %	3	35 %
営業利益	48	41	53	5	10 %	12	30 %
営業利益率	10%	8%	9%				

- 出荷量 : 化成品価格改定による反動減、ラテックス手袋向け流通在庫過多継続で、YoY・QoQともに減少
- 売上高 : 販売価格改定が進み、YoY・QoQともに増加
- 営業利益 : 合成ゴムを中心に、原料価格下落でスプレッドが改善し、YoY・QoQともに増加

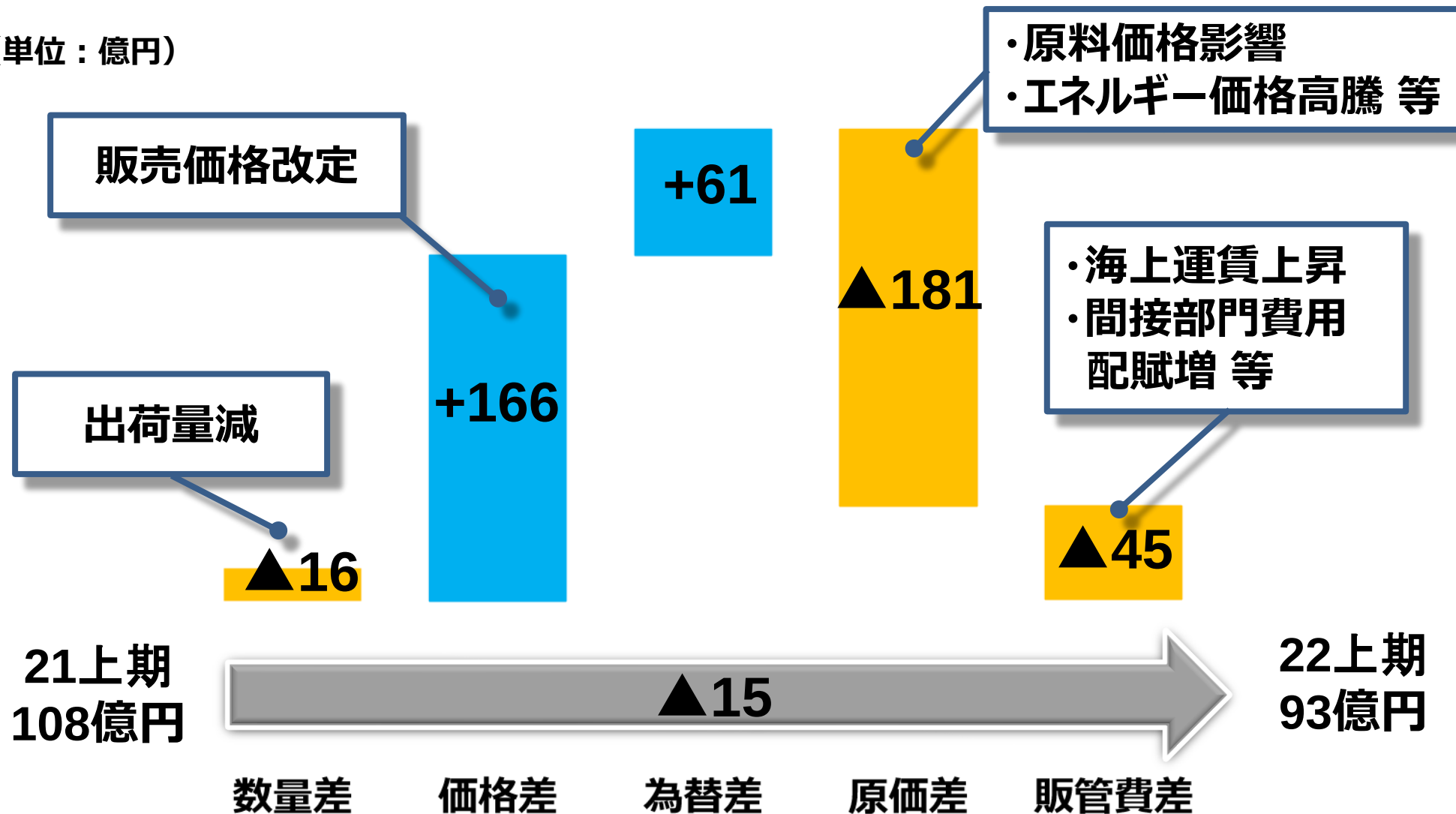
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)

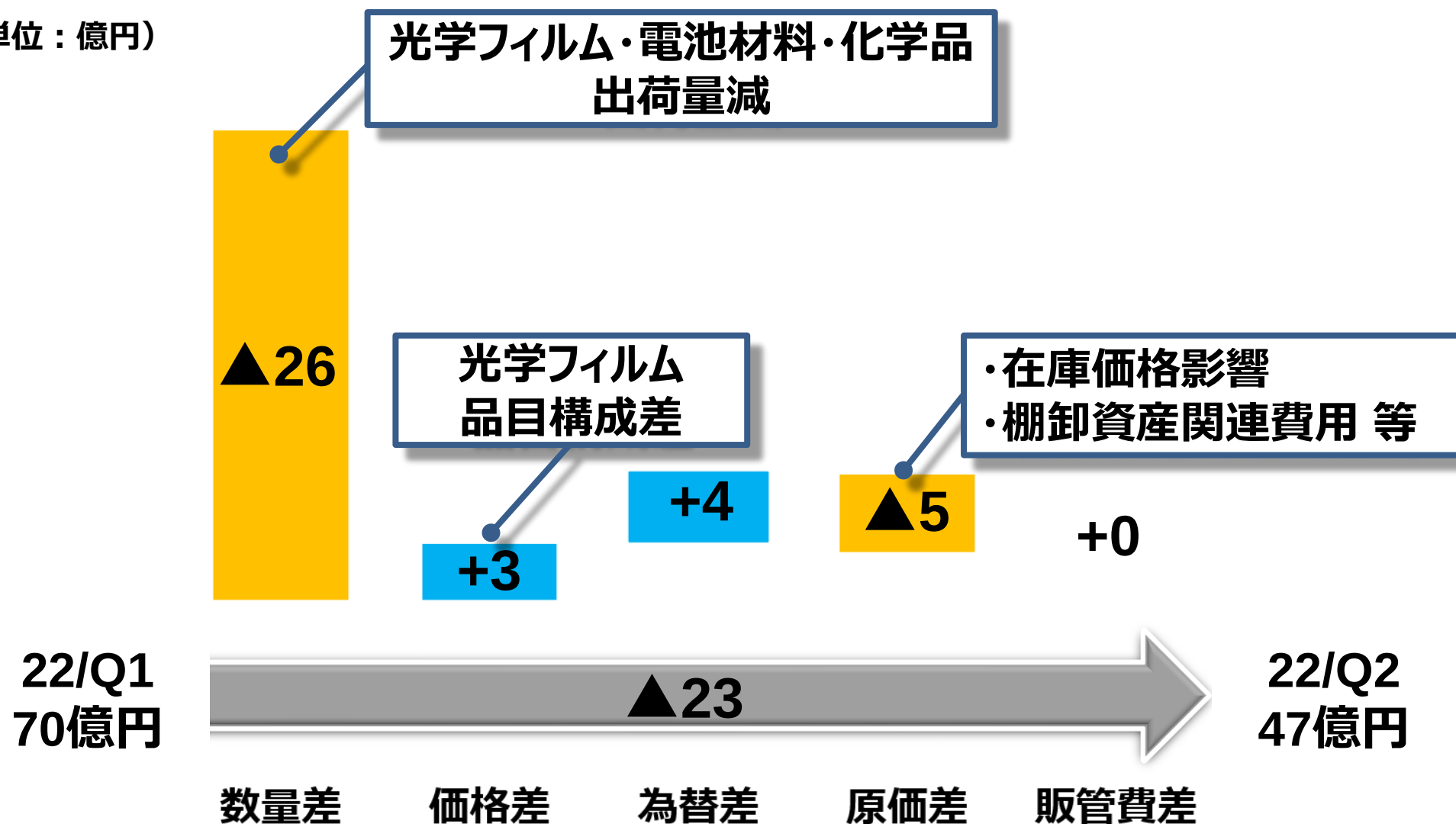


P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

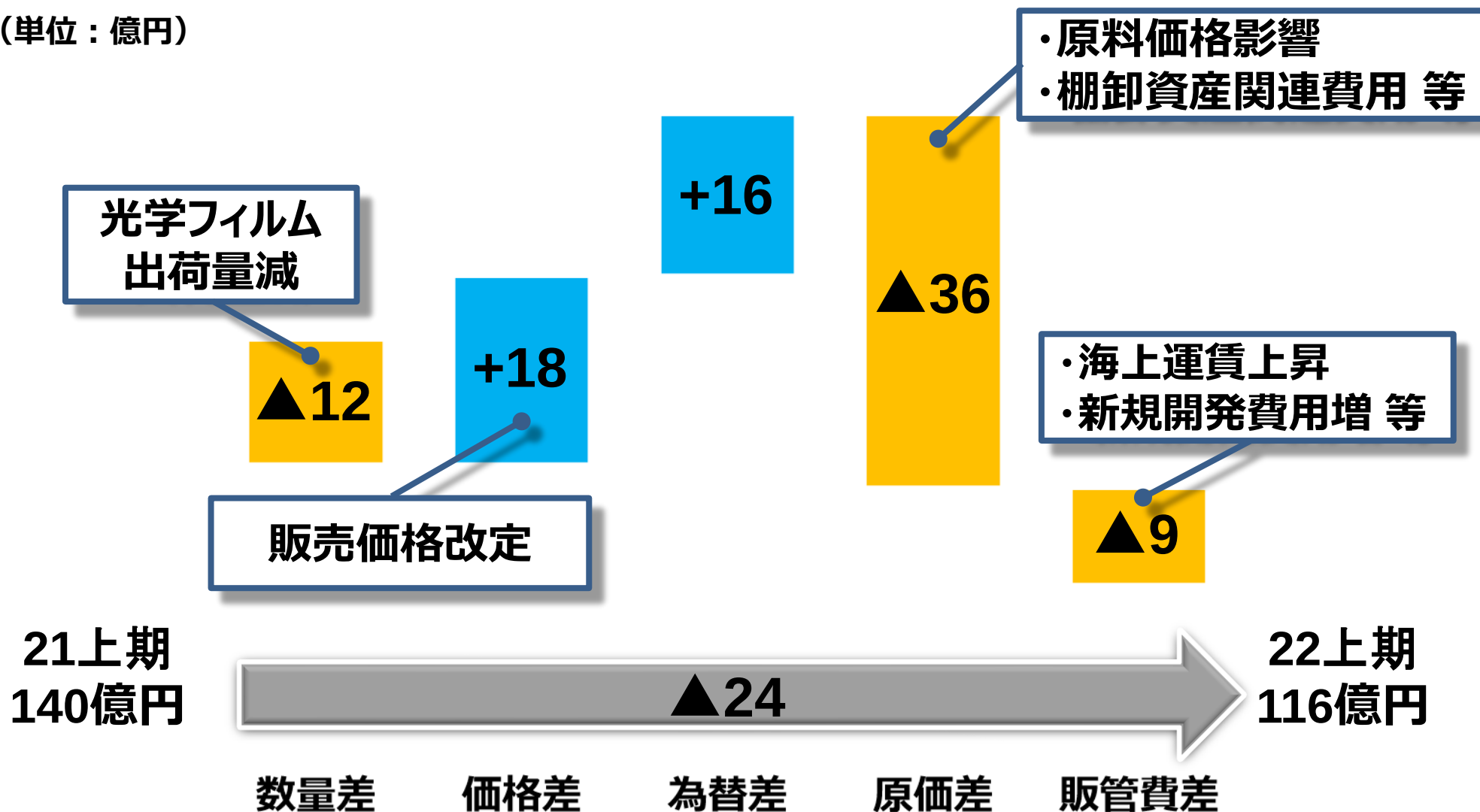
(単位：億円)	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	289	301	265	▲ 24	▲ 8 %	▲ 36	▲ 12 %
※ 高機能樹脂	180	177	151	▲ 28	▲ 16 %	▲ 25	▲ 14 %
高機能ケミカル	97	113	102	5	6 %	▲ 11	▲ 10 %
メディカル他	13	11	11	▲ 2	▲ 13 %	1	6 %
営業利益	63	70	47	▲ 16	▲ 26 %	▲ 23	▲ 33 %
営業利益率	22%	23%	18%	※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー			

- 売上高
 - 高機能樹脂：光学フィルムの需要軟化により、YoY・QoQともに減少
 - 高機能ケミカル：電池材料はEV向け堅調でYoYは増加するも、民生向け需要の一服およびLIB原料価格高騰等の影響でQoQは減少
- 営業利益は光学フィルム出荷振るわず、YoY・QoQともに減少

（単位：億円）



(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	130%	82%	133%
民生他向け	43%	70%	52%
全体	104%	80%	110%

■ EV向け

LIB原料価格高騰による電池メーカー稼働率低下等の影響を受け、QoQは出荷が伸び悩むも、YoYはEV向け中心に堅調

■ 民生他向け

家電およびモバイル端末向けの需要一巡

世界的な買換え需要停滞長期化による一服感継続

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	67%	92%	72%
医療その他向け	164%	117%	137%
全体	124%	110%	112%

■ 光学用途向け

スマホ向けを中心に、新型コロナウイルスおよび半導体不足の影響により顧客の稼働が落ち込み出荷量減

■ 医療、その他向け

プレフィルドシリンジ等医療包装容器で需要堅調
生産要因による前期分まとめ出荷の影響でQoQ出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	82%	86%	93%
大型向け	36%	36%	68%
全体	47%	47%	74%

■ 中小型向け

- スマホ向け堅調も、インセル化影響等によりタッチセンサー用フィルム出荷量減
- タブレット・ノートPC向け緩やかに需要一服

■ 大型向け

TVメーカー部材調達停止により出荷量減
需要回復はQ4となる見込

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

総資産5,255億円（+408）

【流動資産】 +230億円

- ◆現預金 ▲191億円
- ◆売掛債権 +106億円
- ◆未収入金 +64億円
- ◆棚卸資産 +252億円

流動資産
2,979
(+230)

固定資産
2,275
(+178)

【固定資産】 +178億円

- ◆有形固定資産 +70億円
- ◆投資有価証券 +93億円

流動負債
1,545
(+159)

固定負債 251 (+9)

純資産
3,458
(+240)

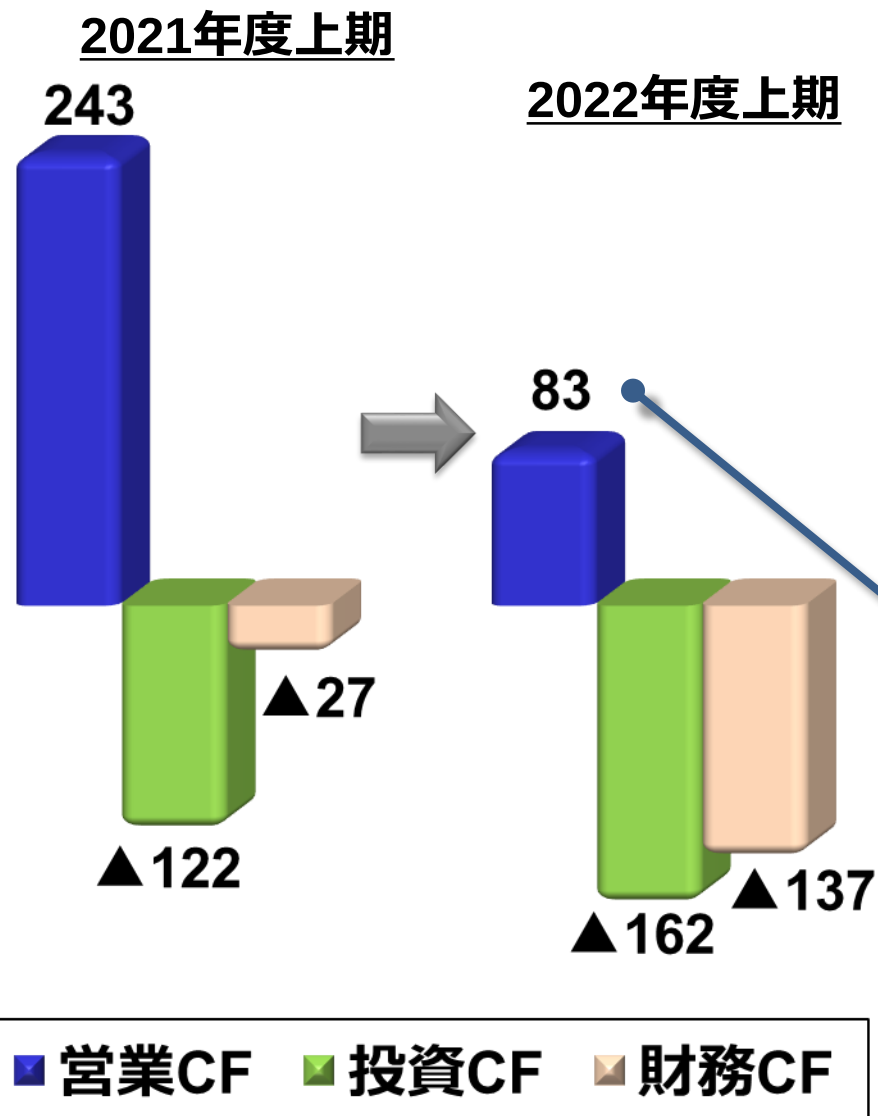
【流動負債】 +159億円

- ◆買入債務 +146億円
- ◆修繕引当金 +45億円
- ◆短期借入金 +39億円
- ◆社債 ▲100億円

【純資産】 +240億円

- ◆自己資本比率 65.1% (▲0.6)
- ◆D/Eレシオ 0.04 (▲0.02)

(単位：億円)



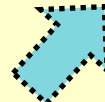
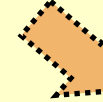
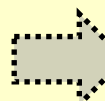
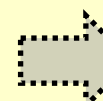
(単位：億円)

	2021年度Q2	2022年度Q2
営業CF	243	83
投資CF	▲ 122	▲ 162
フリーCF	122	▲ 79
財務CF	▲ 27	▲ 137
CF	94	▲ 216

・税前提益 +240億円
 ・減価償却費 +95億円
 ・棚卸資産(定修在庫増) ▲210億円

・社債償還 ▲100億円
 ・自己株式取得 ▲40億円
 ・配当 ▲32億円
 ・短期借入 +39億円

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

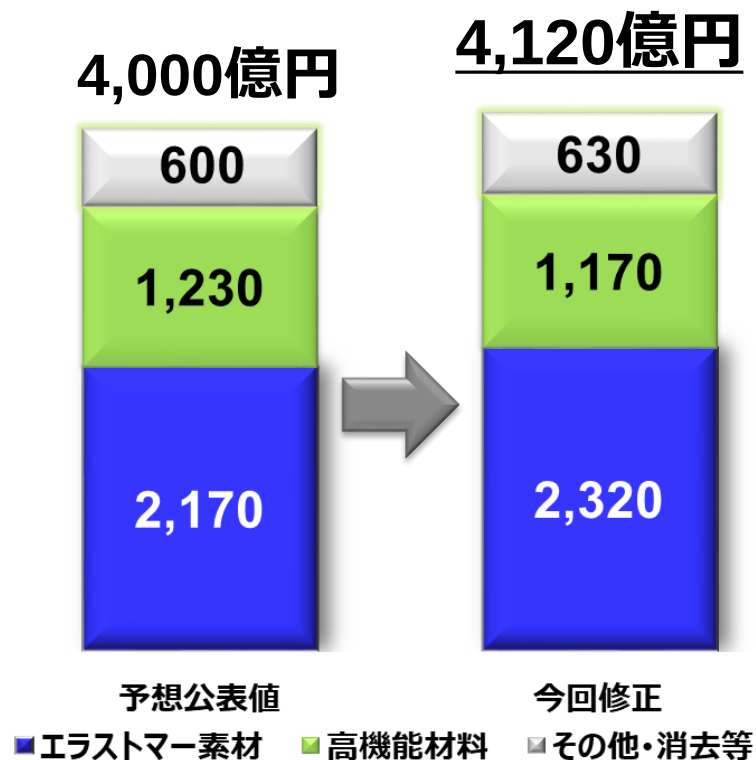
		上期		下期		
エラストマー 素材 (億円)		売上 実績	営利 実績	売上 予想	営利 予想	下期事業環境 コメント
		1,114	93	1,206	67	
合成ゴム					販売価格改定により増収 原料価格下落とエネルギー価格高騰 が重なり、スプレッドが悪化	
ラテックス					上期並みで推移	
化成品					販売価格改定により増収 出荷量の反動減は継続 エネルギー価格高騰で営利横ばい	

※上期は当初予想に対する着地状況、下期は上期を起点とした当社見立て

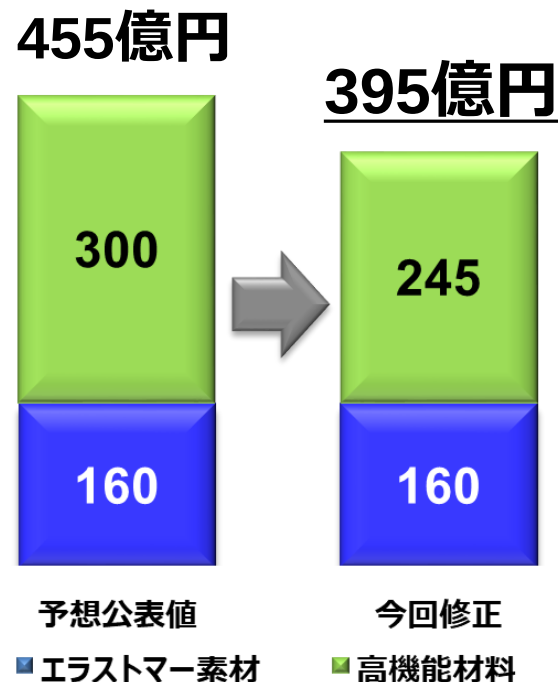
		上期		下期		下期事業環境 コメント
高機能材料		売上実績	営利実績	売上予想	営利予想	
(億円)		566	116	604	129	
光学樹脂						スマホ向けは需要不振が継続 医療その他向け中心に需要堅調を維持
光学フィルム						スマホ向け堅調も出荷の端境期に入る 大型フィルムはQ3まで調整継続
電池材料						下期回復を見込む

※上期は当初予想に対する着地状況、下期は上期を起点とした当社見立て

【売上高予想】



【営業利益予想】

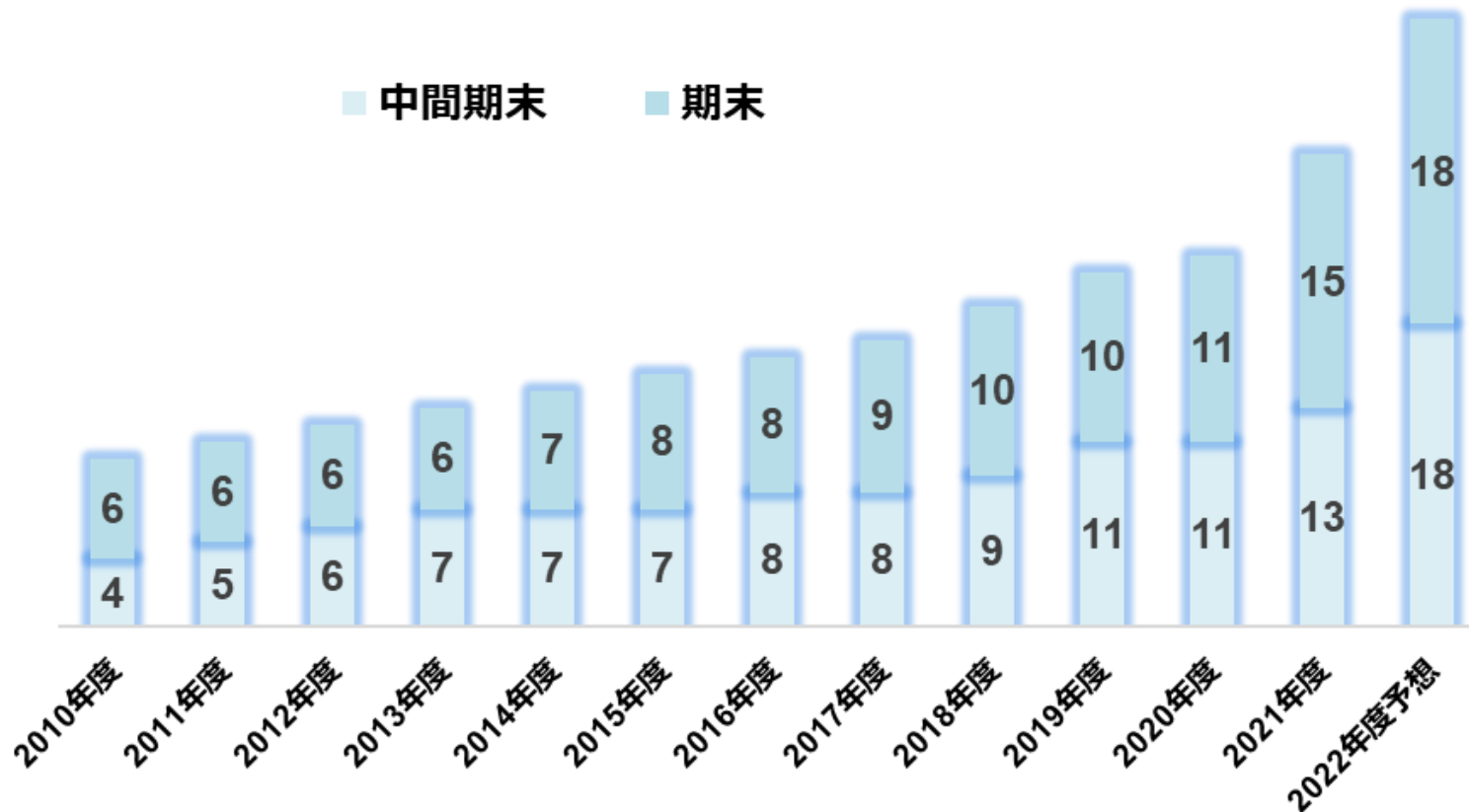


■ 2022年度業績予想を修正

2022年度業績予想前提(10/31時点)：

- ・US\$=140円、€=140円、国産ナフサ=¥73,000、アジアブタジエン=US\$850
- ・物流状況は2022年度Q2の状況が続く
- ・新型コロナウイルス感染症、ロシア・ウクライナ情勢による調達、生産の影響は軽微

【配当金予想、単位：円】



安定的に持続的な
配当政策を継続
(方針に変更なし)

■ 当初予想を据え置く

- 2022年度の配当金は中間期末18円、期末18円の36円を予想
- 対前年度比+8円、2010年度から13期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2022年度 Q3決算発表	2023年1月31日（火）を予定
--------------------------	-------------------------

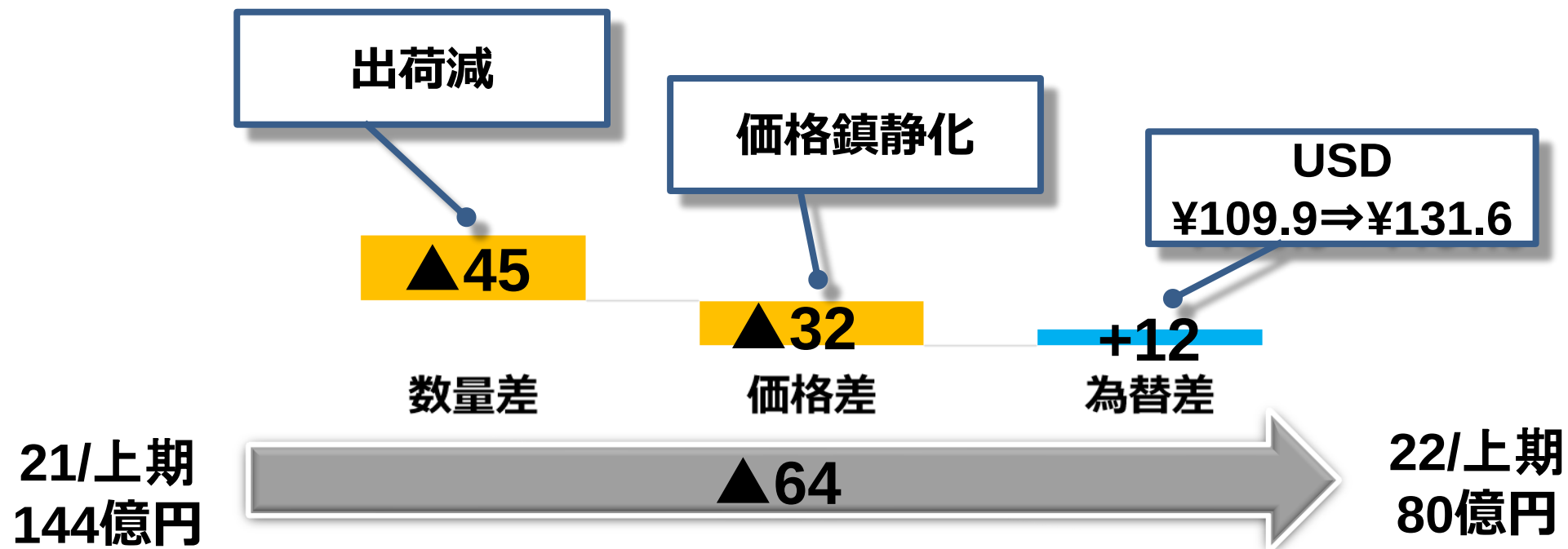
※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON
日本ゼオン株式会社

以 上

統合報告書は[こちら](#)

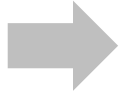
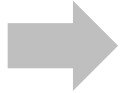
（単位：億円）



	2020年度 Q1	2021年度 Q2	2022年度 Q1	2022年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
--	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------	------------	-----------	------------

単価

21/2Q=100		100	80	86	▲ 14 pt	▲ 14 %	6 pt	8 %
20/1Q=100	100	191	153	162	-	-	-	-

	2022年度Q2 (2022年度Q1比)			
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
合成ゴム				・主力工場定修のため出荷量調整継続 ・販売価格改定が進む一方、原料価格下落でスプレッドが改善し増収増益
ラテックス				・手袋向け流通在庫過多継続
化成品				・販売価格改定による反動で出荷量減 ・出荷量減に伴い減収減益

2022年度Q2 (2022年度Q1比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
光学樹脂				・医療その他向け出荷量増 ・生産要因によるまとめ出荷で品目構成差が発生し増収減益
光学フィルム				・大型向けフィルム・中小型向けタッチセンサー用フィルム出荷量減により減収減益
電池材料				・民生向け需要に一服感、LIB原料価格高騰により電池メーカー稼働率低下等で出荷量減 ・出荷量減に伴い減収減益

用途	2022年度市況動向 (21年度比)		状況変化
	7/28 時点	10/31 時点	
大型TV			7/28想定よりパネル市場在庫調整は深刻化
スマートフォン			想定通り堅調 タッチセンサー用フィルムの市況振るわず
タブレット			7/28想定よりQ2調整幅は緩やか 在宅・教育関連の需要低下で市況振るわず
ノートPC			タブレットと同様

※2022年度市況動向は、当社予測に基づいた当社製品の21年度比販売見立て

アップサイド

物流混乱解消

為替の円安化

コンテナ・船の流動化

円安ドル高

物流コスト減

円安ユーロ高

ダウンサイド

原料状況悪化

半導体不足長期化

ナフサ高騰

新型コロナ再拡大

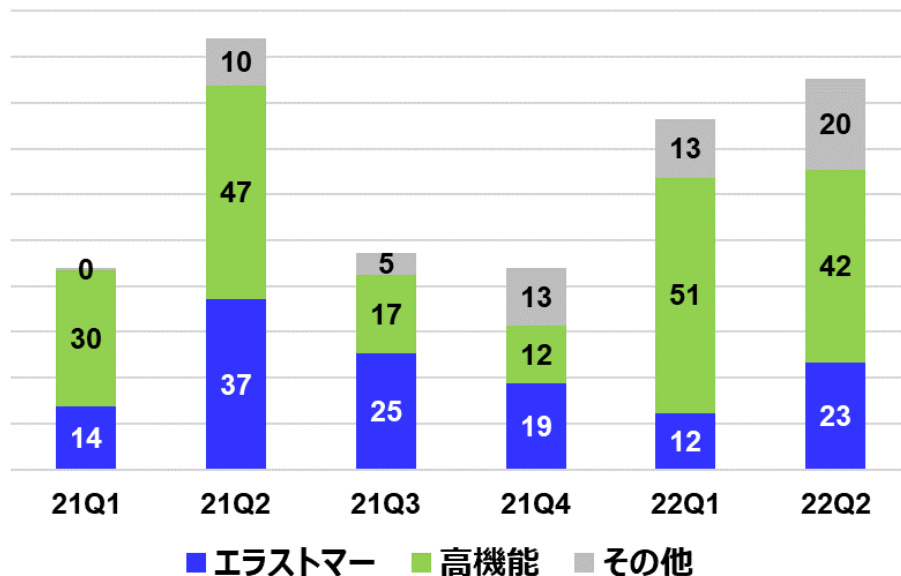
ブタジエン下落

モバイル端末減産

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

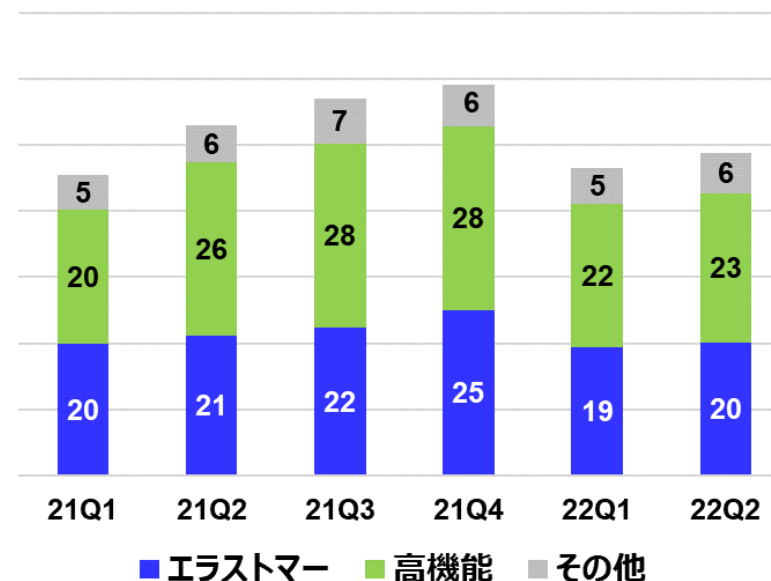


21年度実績
229億円



22年度予想
370億円

【減価償却費】



21年度実績
215億円



22年度予想
210億円